



## 1月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸YMCAちとせ幼稚園

あけましておめでとうございます。

年末年始はどのようにお過ごしでしたでしょうか。ご家庭によっても違うでしょうし、同じご家庭でも歳月とともに変わってくるものだとも思います。

私がこどもの頃、暖房器具は電気コタツや灯油ストーブの他に火鉢がありました。

来客が多い年始は、こどもはコタツを追い出されて火鉢を充てがわれました。陶器で出来ている火鉢はそれ自体が熱くなっていて、炭火の匂いがして温かでした。網を載せて、遊びに来た従兄弟たちと、餅やミカン、時にはスルメやたこ焼きを焼いて食べたのは、お正月の特別な記憶になっています。

幼稚園の頃、友人の家（古いお屋敷でした）の掘り炬燵も炭火の匂いがしました。

電気コタツよりも随分大きく、脚を入れても宙ぶらりんで落ち着きません。中を覗くと、掘り込まれた底や側面は板張りで、火鉢が置いてありました。潜り込んで底にしゃがんでみると、炭火の熾った橙色が唯一の灯で、隅の方、特に火鉢の向こう側は暗がりになっています。何か居そうな気がして目を凝らしていると、「こら、もぐったら死んでまうで！」と、友人のおじいちゃんに怒られました。

「掘り炬燵はもぐったら死ぬんや！…うちの電気コタツは「寝たら風邪ひく」やて、マヌケやなあ。（掘り炬燵の）あの暗いところ、どっか（怪しい世界）に繋がってるんとかうかな。」

こどもだけでは危険もある掘り炬燵や火鉢が良い思い出なのは、私の記憶には含まれていないけれど、いつも見守ってくれる大人たちの眼差しがあったからだと思います。

私の火鉢と掘り炬燵の記憶から遥か半世紀、こどもたちはこの年末年始、どのような経験を、どのような記憶と結びつけて心に刻んだのでしょうか。誰かと共に過ごし、育まれ、愛され守られたという温かな記憶が、過信ではないけれど自らを肯定することが出来る「自信」になって心に刻まれ、これからの成長の基礎となり力となっていくように願っています。

## 年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなた方は神に愛されている子供です」  
(エフェソの信徒への手紙 5章 1節)

## 1月主題 『(なかまと) ひびきあって』

<聖句> 「見よ。わたしはあなたと共にいる」  
(創世記 28章 15節)